



The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No. 3

1994年10月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会

編集事務局

〒136 東京都江東区亀戸2-28-5

☎03-3685-6761 FAX03-3684-7420

大学に負けない魅力作り

探求心と仕事への気力持つ若者育てる

全国自動車整備専門学校協会副会長 山本 眞

この度の役員改選で、1994—95年度の全国自動車整備専門学校協会副会長の大役を拝命いたしました。誠心誠意、協会のお役に立つよう努力致しますが、まずは自分の学校経営についての基本的な考え方を申し上げ、ご批判を仰ぎたいと存じます。

いま、我々の最大の難問は「若者の減少」に加えて彼らの「大学指向」と「技術離れ」です。誰もが大学入学が可能になれば専門学校に行く人はいなくなるのではないかという問題です。確かに、学校が学生を選ぶのではなく、学生が学校を選ぶ時代となるでしょう。そこで学生に選ばれる専門学校の魅力づくりが課題です。

求められるスペシャリスト

日本の社会には長い間の経済成長の間に培われた社会のシステムや個人の価値観に大きな変化が起っています。企業も大きく変革を試みています。そのキーワードは成長から成熟、量から質といわれています。

例えば、成長時代は他社の行ったことを遅れずに取り入れることが主たる仕事でした。その時社長に求められる能力は個性より効率であり、社内調整の上手なゼネラリストが優秀な社員でした。だからゼネラリスト養成型、教養指向の文系の大学教育に人気が出たのではないのでしょうか。

しかし、いま企業は各社独自の領域を開拓しようとしています。そこではイノベーション能力が望まれ、社外にも通用するスペシャリストが求められるでしょう。それは若者の多様化した



自己実現の欲求と整合し、個人の価値観も変えています。この変化に技術指向の専門学校教育が応えねばならないと思います。

専門学校の設置目的は職業能力の育成です。では職業教育、中でも技術教育は、いまずぐ使えるように仕事の手順を丸ごと憶えさせれば良いのでしょうか。否です。技術は応用性の高いもので、知的なものです。技術教育の目的は探究心の育成だと思えます。探究心を育てる手段として先ず訓練から入ることも有効ですが、探究心を持たないただの訓練は受け身の学習に終わりがちです。同様に、職業教育の目的は仕事への気力の育成だと考えます。

このように専門学校は訓練だけの学校ではないと思っています。そこに高等教育機関の一つといわれる所以があると思えます。高校卒業進学者の三人に一人の学生が専門学校に、四大や短大に行かずに、入ってくる所以があると思えます。この目的を違えると、これからの変化の激しい時代に、高校生が進学したい学校に選ばれなくなって

しまうことが懸念されます。

クルマへの興味は「強み」

自動車整備学校は、学生の誰もが「クルマ」に興味があるという強みを持っています。教育は探究心の育成が本質とすれば、探究心の基となる興味を入学前から既に持っているということは、よい教育をする上で他にない強みです。この優位性を大いに生かして、もっと幅広い取り組みをすれば、学生募集で文系大学に負けることはないと思うのです。ただし、この関心を「興味」レベルに終わらせないで、「技術」とか「職業」レベルまで訓練によって引き上げなければならないことはいうまでもありません。

幅広い取り組みというのは、卒業生を自動車整備業界に限らず、広く自動車に関わるいろいろな業界へ送りだして、活躍して貰うような教育・指導を研究開拓すべきだという意味です。そして大きく変化する社会にも、仕事への気力、技術への探究心を持った卒業生が各界で力強く活躍することを自動車整備専門学校の魅力にしたいと思います。

■ CONTENTS ■

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 特集・18歳人口激減!
- 6面 協会トピック
- 7面 各校の行事紹介
- 8面 私の教授法